●総括セッション・閉会式

大会報告

こども環境学会2023 年大会（沖縄）

大　会　提　言

こども環境学会 2023 年大会（沖縄）は「地域に生きるこども」をテーマに行われました。学会会員と多くの県民に参加いただき、熱心な議論がかわされました。沖縄の歴史と固有の環境に触れながら、現代の世界のこども環境の普遍的な課題について考える場を持ちました。

こどもは地域の自然と社会に育てられ、地域は多様な人がともに暮らす場でした。しかし、人と自然、社会との関わりが閉ざされ、孤立化が進み、生活体験と遊びの経験に乏しい暮らしと環境の中でこどもも大人も暮らしています。

これからの地域を様々な専門性や新しい場づくりを含めて改めて構築していくことが、求められています。

❶「こどもの声」を聴くことで、「地域の声」と結びつけよう

コロナ禍を経て「こどもの声」を傾聴する重要性を改めて考えさせられます。その一方で、地域も様々な形で変化を求められ新しいニーズや要望が聞こえてくるようになりました。私たちは、やってみたいといった「こどもの声」と「地域の声」を結びつけ、実現するために一人ひとりができることから行動することが求められています。

❷ こども自らが築き、過ごし、開いていく「居場所」となるために
～生活の場としての居場所の意味を問い直し、こどもと共に築いていこう～

こどもが生活の場として過ごす居場所は、大人から「管理」される場でなく、一人ひとりのこどもの過ごし方が尊重され「自由」に過ごせる場、ありのままの自分でいられる場でなければなりませんが現状はどうでしょうか。居場所が「行かされている」から「行きたい」へ、「居させられている」から「居たい」場所となるためには、物的環境と社会的環境の両方について、生活の主体であるこどもの意見を聴く必要があります。こどもにとって「最もよい居場所」とは何かを問い直し、こどもと共に築いていきましょう。

❸ 一人一人が自分らしく過ごし、楽しみ、こどもも大人もともに支える遊び場づくりを進めよう

遊びは、生きることを楽しむことであり、遊ぶことでこどもは自ら育っていきます。親や地域の大人は遊び場に関わることで遊びの意味を再発見し、人との関わり方を見出すことができます。

様々な人が共に過ごし、自分の遊びと過ごし方をつくりだしていける遊び場が必要です。遊びの意味が認められ、全てのこどもがそんな遊び場で過ごすことができる社会を地域とともにつくりあげていきましょう。

❹ こどものありのままの姿を認めよう
～自然体験や創造的活動を通して、こどもの感性を育むために～

自然体験や創造的活動を通してこどもの感性を育むためには、主体的活動ができるように大人が環境を整える必要があります。しかし、大人が準備しすぎないことも大切です。こどものありのままの姿を認め、こどもの活動に時間をかける必要があります。こどもにとってよりよい環境をつくることは、大人に課された課題です。